

熊本の自然

江津湖で見られる魚類～ハス～

このコーナーでは、熊本の動物・植物・地質について紹介します。

この時期、個体数は多くないものの、江津湖上流部の浅い流れで目立っている、「派手」「大きい」「動きが機敏」な魚についてよくたずねられます。コイ科魚類の“ハス”です。通常は銀色一色ですが、春から夏の間、オスは淡い緑と桃色を身に纏い、陸上から見てもハスであることがわかります。美しさもさることながら、もっと魅力的なのはその面構えです。口は大きく、鉤型に曲がり、獲物に逃げられにくい作りになっています。俊敏な泳ぎで小魚をとらえ、ときには水面近くを飛ぶトンボさえ捕食します。自然分布域は琵琶湖淀川水系と福井県の三方五湖のみですが、現地では数を減らしており、絶滅が危惧されています。



博物館からのお知らせ

【プラネタリウム新番組】

4月18日～6月16日
賢治の星座早見～星のものがたり～
宮沢賢治が愛用した星座早見。その星空を舞台に、観る者を星の世界へ誘う新たなものがたりが広がります。



©GOTO INC

【展示会予告】

- 地質の日企画 身近に知る「くまもとの大地」
5月12日～6月2日 特別展示室3
熊本県内の大学や博物館、地質関連団体が合同で、熊本の大地をテーマとした岩石・化石などの展示を行います。
- 自然の美味しい味わい方
6月8日～7月7日 特別展示室3
身近にいる“実は食べてみるとおいしい”生きもののレシピや自然界にある美味しそう!?な石など「自然と食」について考える展示会です。

■大昆虫博 夏季特別展

7月20日～8月25日 特別展示室1・2・3
世界の美しい昆虫や珍しい昆虫、熊本県内でみられる身近な昆虫などの標本を展示し、知られざる魅力などを紹介します。昆虫カメラマン栗林慧氏が虫の目線で撮影した大迫力の巨大昆虫写真に囲まれて、虫の世界を体験してみませんか？

くまはく NEWS LETTER

Vol.2



左) 黒塗牡丹唐草文拵箱 右) 六代宣紀所用白糸威二枚胴具足
ともに、公益財団法人 永青文庫所蔵、熊本県立美術館撮影

企画展

きらめく！大名道具

—細川家の「華」と「武」の世界—

2019年4月20日(土)～7月7日(日)

公益財団法人 永青文庫所蔵資料を中心に、当館が管理している調度品や武具類を展示します。今回は、熊本県立美術館との初めての連携企画展として同時開催いたします。この機会に、ぜひ両館でご鑑賞ください。

2019年4月

- 企画展案内
- 資料紹介
- イベント報告
- 熊本の自然
- 博物館からのお知らせ

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM



肥後の見張り番
しゃちべえ

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはく NEWS LETTER Vol.2

発行 熊本博物館

〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX. 096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp



企画展案内

きらめく！大名道具 - 細川家の「華」と「武」の世界 -
4月20日(土)～7月7日(日)

熊本城大天守内(旧熊本博物館分館)2階では、長年にわたり公益財団法人 永青文庫(旧熊本藩主細川家伝来の美術品、歴史資料等を収蔵)の資料を展示していました。今回は、当館が管理している永青文庫所蔵資料を中心に、調度品類と武具類を展示します。本展は、熊本県立美術館との初めての連携企画展となります。この機会にぜひ両館の展覧会をお楽しみください。なお、5月6日(月)13時半からは、両館学芸員によるリレーミュージアムトークも開催します。

※当日の13時半までに熊本博物館2階特別展示室1にお集まりください。(途中、熊本県立美術館への移動があります)

熊本県立美術館本館別棟展示室では、4月13日(土)から7月7日(日)まで「きらめく！大名道具-細川家の「文」の世界-」が開催中です。



遠藤羽紋菊唐草文時絵女乗物
(公益財団法人 永青文庫所蔵、熊本県立美術館撮影)

資料紹介

貴重な
肖像彫刻

国指定重要文化財《木造東陵永瑠禅師倚像》の修復完了！

国指定重要文化財《木造東陵永瑠禅師倚像》(宗教法人 雲巖禅寺所蔵)は、曹洞宗の古刹・雲巖禅寺(熊本市西区松尾町平山)を開山したと伝わる元の禅僧・東陵永瑠(1285?-1365)の姿を表した南北朝時代の肖像彫刻です。禅宗では、高僧の姿を表した肖像画や肖像彫刻を「頂相」といい、儀礼や信仰の対象として祀られてきました。東陵永瑠は、曹洞宗宏智派の雲外雲岫の教えをつぎ、足利直義(1306-1352)の招きで1351年(観応2・正平6年)に来日したとされています。熊本での足跡は不明ですが、京都の天竜寺や南禅寺、鎌倉の建長寺や円覚寺などの住持をつとめ、日本の禅宗に大きな影響を与えた僧侶の一人です。本像は、大正4年(1915)に国の重要文化財に指定され、昭和40年代に当館に寄託後、長らく展示されていました。昭和44年(1969)に一度修復されたものの、その後の経年による劣化や汚れが全体に及んでいたため、平成27年(2015)に熊本市が管理団体となり、平成30年度文化庁による「日本の美再発見！

文化財美術工芸品魅力開花推進事業費国庫補助」を活用して修復が完了しました。修復にあたっては、雲巖禅寺、九州国立博物館、公益財団法人美術院、文化庁、熊本県立美術館、熊本県文化課、熊本市文化振興課の皆さまにご指導・ご協力いただきました。修復後間もない本像は、経過観察の後、2020年度内の公開を計画しています。雲巖禅寺といえば、「霊巖洞」に参籠した宮本武蔵が『五輪書』を著したことで知られていますが、あの武蔵も本像を拝観したかも!?・・・しれません。公開まで今しばらくお待ちいただきますが、どうぞお楽しみに！



修復前の《木造東陵永瑠禅師倚像》
於 リニューアル前の熊本博物館

※「倚像」とは、椅子や台座に腰掛けた姿で表された像をさします。

イベント報告

天文講演会「日本の月探査SELENE(かぐや)計画からUZUME計画へ」

2018年12月15日(土)

リニューアルオープン記念イベントとして、宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所の春山純一氏をお迎えし、日本の月周回衛星「かぐや」が発見した月の地下洞くつの入口、月の地下洞くつの探査計画「UZUME(うずめ)」について講演をいただきました。

地球や月についての基礎知識からかぐやによる観測成果、そして未来の月探査と幅広い話題を提供していただき、月についてたっぷり学べる90分間となりました。

講演の終了後には「他のクレーターでも溶岩チューブは見つかるのか」「人類は近いうちに火星に行くことができるのか」といった参加者からの質問に対し、春山先生の考えをわかりやすく説明していただきました。今後もプラネタリウムでは定期的に天文講演会を実施予定ですので、ご期待ください。



革新的衛星技術実証1号機・イプシロンロケット4号機
ロケット打ち上げパブリックビューイング

2019年1月18日(金)

鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所より打ち上げられるイプシロンロケット4号機の打ち上げライブ中継のパブリックビューイングをプラネタリウムにて開催しました。途中機材トラブルもありましたが、無事参加者全員でロケットの打ち上げの瞬間を見ることができました。



打ち上がったロケットが小さくなっていくのを見守っていると、どこからともなく拍手が起こり、イプシロンロケット4号機の打ち上げ成功を皆で喜べたことは、スタッフにとっても大変嬉しい出来事でした。

当初は1月17日の予定だった打ち上げが、天候不良により翌18日に延期された影響で告知が不十分な中での開催でしたが、イベント当日はたくさんの方にご来場いただき、約130名の参加がありました。

リニューアルオープン特別講演会「小泉八雲と熊本」

2019年1月27日(日)

民俗分野の常設展示では、リニューアルを機に小泉八雲に関するトンボの造り物について再現展示を行っています。リニューアルオープンを記念した特別講演会として、小泉八雲熊本旧居の館長、坂本弘敏氏に「小泉八雲と熊本」と題して、小泉八雲が熊本に来るまでの背景などについて講演をしていただきました。

小泉八雲は明治24年(1891)の11月から約3年間熊本に滞在し、人々の生活に関する多くの作品を生み出した文学者です。生い立ちや書簡、逸話、さらに熊本を舞台にした作品などについて詳しくお話いただき、常設展示と併せてより深く知っていただける貴重な機会となりました。

